

「アネモネの咲く庭」

西浦 真弓

登場人物

小山 澄江 健吾の母。
小山 健吾 澄江の息子。
相田 由美 健吾の婚約者。

小山家の和室。上手には仏壇と隣の部屋へつながる障子。仏壇にはお供えにういろと和菓子が乗っている。下手は台所へ続いている。舞台奥には縁側の向こうに庭。縁側は上手と下手に行き来できる廊下になっている。健吾と由美が上手の縁側から現れる。

由美 ちよつと本当に良かったの？
健吾 大丈夫だって
由美 日にちずらしても良かったんじゃない？
健吾 いつも約束約束って言うから
由美 それとこれとは違うでしょ
健吾 (仏壇に手を合わせて) ただいま。ほら、お前も
由美 うん

由美、手を合わせる。澄江、下手の縁側から現れる。

澄江 由美さん、ごめんなさいね。バタバタして
由美 いえ、こちらこそ。こんな時に来てしまって
澄江 あ、お茶よね。ちよつと待っていてくださいね
由美 お構いなく

お茶を淹れに台所へ行く澄江。

由美 何かお手伝いした方がいいかな？

健吾 大丈夫だって
由美 そう？
健吾 お客さんなんだから
由美 でも：
健吾 心配しすぎだって
由美 だって
澄江 (台所に向かつて) だいぶ片付いた？
健吾 (声のみ) そうね、一通りは
由美 あの、何かお手伝いしましょうか
澄江 (出てきて) お客様に手伝ってもらうのは、ねえ
健吾 ほら
由美 いえ、お客様扱いしないでください
澄江 でも、まだ籍も入れてないでしょ
由美 入籍はまだですけど、家族と思ってください
澄江 ……そう？じゃあ、ちよつとだけ手伝ってもらおうかしら
由美 はい！
澄江 とりあえず一服しましょう
由美 そうですね
澄江 由美さんどうぞ
由美 いただきます
澄江 (お供えの) ういろもらい
澄江 一個だけよ
健吾 叔母さん来たんだ？
澄江 今朝ね
健吾 へえ
澄江 あんた自分ばかり食べてないで。由美さんもどう？この練り切り美味しいのよ
由美 私は、お腹いっぱいなんで
健吾 遠慮すんなよ
由美 ほんとに大丈夫だから
澄江 (お茶を飲んで) はあ、やつと落ち着いた
健吾 大変なの？
澄江 まあ量が多いから

健吾 押し入れとか見ようか？
澄江 叔母さんたちが朝のうちにやってくれたわ
健吾 要らない物ばかりじゃない？
澄江 捨てられない人だったから
健吾 本だつて読まないのに出かける度に買ってきてたよね
澄江 :そうね
健吾 あれ、どのくらいあるの？
澄江 部屋の半分くらい
健吾 そんなに
澄江 運ぶのも大変
健吾 捨てちゃうの？
澄江 まあね
健吾 あ！由美、文学部じゃん
由美 え？
健吾 何か持って帰れば？
澄江 由美さん、読書とかする？
由美 あ、はい
澄江 じゃあ読みたいのあったら遠慮なく持って行ってね
由美 いいんですか？
澄江 うちじゃ誰も読まないし。読んでもらう方が本も幸せでしょ
健吾 じゃあ遠慮なく
澄江 何であんなに買い込んでたんだろうな、親父
健吾 そういえば、あんた手合わせた？
澄江 最初にやったよ
由美 あら、そう
健吾 お義父さんと健吾さんって似てますよね
澄江 えーそう？
由美 眉毛とか口元とか
澄江 男の子は母親に似るっていうでしょ？でも健吾は生まれた時から
由美 お父さんそっくりだったのよ
健吾 そうなんですか
由美 爺ちゃんがいつも言ってたな
澄江 へえ

健吾 (庭を見て) あ、あの花咲いたんだ
澄江 今が咲き頃
健吾 ふーん
由美 あれって？
澄江 アネモネよ
由美 あれが
健吾 いつの間にか植わってたよな
澄江 お父さんが植えたのよ
健吾 へー
澄江 買ったんですって、本屋の帰りに。赤いアネモネ
健吾 母さんに？
由美 紫もあるんですね
澄江 紫は後から私が植えたのよ
由美 そうなんですか
澄江 紫の方がちよつとだけ若いでしょ？
由美 ちよつと見せてもらってもいいですか？
澄江 勿論。でも触る時は気を付けてね
由美 え？
澄江 かぶれちゃうから。草全体が毒を持つてるの
由美 あんなにかわいいのに
澄江 見た目だけじゃ毒を秘めてるなんてわからないわよね
由美 はい
健吾 由美は縁側から庭へ。
澄江 あー実家落ち着くわ
健吾 たまには帰って来なさいよ
澄江 うーん、まあ気が向いたら
健吾 そういえば、あんたの部屋の物も捨てちゃっていいわよね
澄江 えー、ダメだよ
健吾 ずつと使っていないでしょ
澄江 ちよつとくらい置かせてよ
健吾 じゃあ、せめて要るものと要らないものは分けてくれない？

健吾 また次来た時にやる
澄江 そう言うってやらないんだから
健吾 やりませ
澄江 全部捨てちゃってもいいの？
健吾 はいはい、わかりましたよ。やればいいんでしょ
澄江 お願いね

健吾、自分の部屋の片づけに向かう。澄江はその姿を見送って、別室に向かう。由美、庭から戻ってくるが誰もいない。
由美 あれ？

澄江が本をたくさん抱えて戻ってくる。

澄江 由美さん、ちょっと持ってくれるかしら？
由美 あ、はい
澄江 (本を置いて) ありがとう。ちょっと頑張りすぎちゃったわ
由美 本って見た目より重いですよね
澄江 これ、全部捨てようと思ってるから好きなの選んで
由美 こんなにたくさん
澄江 まだまだあるのよ
由美 あ、運びましょうか？
澄江 大丈夫。ちよつと持ってくるから、ゆっくり選んでてね
由美 ありがとうございます

澄江は再び本を取りに行く。
一人残った由美は本を物色し始める。パラパラといくつか本をめくっていくが、ふとその手が止まる。

由美 (便箋を見つけて) …何これ？

手紙のようだ。思わず読んでしまう由美。

由美 …え？

澄江が再び本をもって戻ってくる。

由美 (便箋を隠す)
澄江 …どうかした？
由美 あ、あの、健吾さんは？
澄江 自分の部屋片づけさせてるの
由美 そうなんですか
澄江 気に入るのあるかしら
由美 あ、はい…
澄江 こっちも見えてみてね

その時、家の電話が鳴る。澄江は電話を受けに行く。
澄江が行ったのを確認して、由美は他の本も調べる。便箋がいくつか出てくる。

澄江 由美さん
由美 (思わず隠して) はい
澄江 ちよつとお隣行ってくるけど、大丈夫かしら？
澄江 大丈夫です
由美 ごめんなさいね。すぐ戻るから
澄江 いいえ、ごゆっくり

澄江出かける。
由美は便箋を一枚一枚丁寧に見ていく。

健吾 何やってんの？
由美 わ、驚かさないでよ
健吾 なにこれ？
由美 はい(健吾に渡す)
健吾 ラブレターじゃん！
由美 お義父さんの本に挟まってたんだけど…

健吾 へー親父もやるう

由美 それより、ここ

健吾 様子って誰？

由美 お義母さんじゃないよね？

健吾 うん

由美 心当たりある？

健吾 ないけど

由美 お義父さんが書いたのじゃないとか

健吾 親父の字だけど

由美 どうしよう、これ

健吾 そのままにしとけば？

由美 お義母さんが見つけちゃったら修羅場でしょ

健吾 親父死んでるのに？

由美 でも、こんな手紙…

健吾 今までも見つけてなかったじゃん

由美 …そうだけど

健吾 大丈夫だつて

由美 …

健吾 心配しすぎだつて

由美 …本当、楽天的なんだから

健吾 何か言った？

由美 独り言

澄江が帰ってきた音。由美は手にもっていた便箋を自分の鞆に押し込める。袋いっぱいの野菜を持った澄江が現れる。

澄江 ただいま

由美 おかえりなさい

健吾 どっか行ってたの？

澄江 中村さんところ。いつもの

健吾 ああ、収穫期か

澄江 ねえ、あんたちよつと屋根見てくれない？

健吾 屋根？

澄江 中村さんが屋根の瓦落ちそうだって

健吾 見間違いないじゃない？

澄江 本当だったら危ないでしょ。ちよつと見てくれるだけでいいから

健吾 嫌だよ、高いところ好きじゃないし

澄江 お願

健吾 えー

澄江 健吾にしか頼めないの

健吾 …しようがないな

澄江 ありがとう。梯子は物置にあるから

健吾 はいはい

健吾、渋々屋根瓦を見に庭へ出る。

由美 大丈夫ですかね…

澄江 本当にお父さんに似てるわ、あの子

由美 え？

澄江 高いところも力仕事も嫌いだし

由美 ああ…

澄江 頼み事もなかなかやってくれないし

由美 お義父さんもそうだったんですか？

澄江 ええ

由美 健吾さんもいつもそうなんです

澄江 ごめんなさい、育て方を間違えたわ

由美 いえ、そういうつもりじゃ…

澄江 一人っ子で長男だからちよつと甘やかしすぎちゃったみたい

由美 もしかしてお義父さんも一人っ子で長男だったり？

澄江 そう！健吾と一緒

由美 そこも同じなんですわ

澄江 頼み事する時、ちよつと気を遣うでしょ？

由美 …はい

澄江 私もあの手この手で頼んだわ

由美 例えば？

澄江 さつきみたいなの、あなたにしか頼めない、はよく使ったわね。あ

れが一番効くのよ

へえ

由美 あとは、頼りにしてるっていう言い方を変えてみたりとか。大げさにほめたり、やる気が出るようになるほど

澄江

あ、でもほめすぎても横柄になってやらなくなるから、たまにはちよつと強めに言わないとダメよ

由美

勉強になります

澄江

そういえばお父さん、よくフラフラ急に出かけてたけど、健吾もそういうところある？

由美

あ、あります

澄江

やっぱり

由美

約束してても、急にどつか行っちゃって

澄江

なかなか帰ってこないのよね

由美

そう、連絡も取れないし

澄江

そうそう

由美

やつと帰ってきたと思ったらヘラヘラ「ごめん」って

澄江

そこのよ

由美

そこも：

澄江

親子ねえ

由美

です

澄江

食べる時も本当にそっくり

由美

こっちの食べてる物欲しがりたり？

澄江

そうそう、一口頂戴って

由美

それ、いつも言うんです！

澄江

由美さんにもしてるの？

由美

友達とかにも言いますよ

澄江

まあ：

由美

もう耳に付いて、気になって

澄江

そういうときは先に一口あげるのよ

由美

先に？

澄江

そう。先にあげると言わないから

由美

今度やってみます

二人、なんだか可笑しくなって笑う。

何だか楽しいわね

澄江

はい

由美

持って帰る本決まった？

澄江

あ、まだ見てる途中で

由美

ゆっくりでいいわよ

澄江

はい

由美

あ、お茶淹れ直すわね

澄江

澄江、台所へ行く。お茶を淹れて戻ってくる。

澄江

どうぞ

由美

ありがとうございます

澄江

二人、一息ついて。

澄江

由美さん、改めて息子をお願いします

由美

あ、こちらこそ。不束者ですが

澄江

結婚、延びちゃってごめんなさいね

由美

いいえ

澄江

お父さん間の悪いところあったのよ

由美

健吾さんもあります

澄江

二人、笑う。

由美

あの、お義母さんはお義父さんのどこが良かったんですか？

澄江

どこだったかしら：お見合いだったから

由美

へえ

澄江

あ、でもお花

由美

お花？

澄江

お見合いの時にお花を持ってきてくれたの

由美

お花？

澄江

あ、でもお花

由美

お花？

澄江

お見合いの時にお花を持ってきてくれたの

由美

お花？

由美 赤いアネモネ？
澄江 ううん、その時はバラ
由美 バラ
澄江 後で聞いたら仲人さんに言われて買っていったらしいの
由美 仲人さんに？
澄江 誕生日が近かったから気を利かせてくれたみたい
由美 なーんだ
澄江 でも、男の人からお花もらうのなんて初めてで嬉しくて。今思えばあの時に決めたのかも
由美 誕生日にお花か。いいな、私も欲しい
澄江 健吾はあげたことないの？
由美 全然。実用的なものばかりです
澄江 あの子ったら
由美 はあ、残念
澄江 ……赤いアネモネの花言葉って知ってる？
由美 何ですか？
澄江 君を愛す
由美 ロマンチックです
澄江 そうね。…私、結婚してから気が付いたことがあるの
由美 何ですか？
澄江 夫婦だからって全部わかるわけじゃない
由美 ……深い
澄江 ふふ、そうかしら
健吾 (屋根の上から) 由美、ちょっと来て
由美 え？はい
澄江 何かしら(と、立ち上がるようにする)
由美 あ、呼ばれたの私なんじゃあお願いね

健吾 あー怖かった
由美 そんなに？
健吾 だから、2階以上は無理なんだって
由美 ああ、そっか
澄江 (澄江に) 瓦、大丈夫そうだけど
由美 ……そう
澄江 (澄江が便箋を持っているのに気がつき) あ…
由美 え？…あ
健吾 ……
由美 ……あー、俺ちよつと出てくる
健吾 え？どこに？
由美 散歩
健吾 今？
由美 そう
健吾 なんて？
由美 どうしても行かなきゃ
健吾 はあ？
由美 じゃ、後よろしく
澄江 ちよつと
健吾 颯爽と去る健吾。残された由美と澄江。
由美 ……あの、
澄江 これ、由美さんも読んだ？
由美 ……はい、見つけちゃって
澄江 そう
由美 あの、ええと
澄江 いいのよ
由美 ……え？
澄江 私、気が付いていたの
由美 え？
澄江 あの人が出かけるのは本屋に行きたいから。駅前の木下書店。その店員に会いに行ってたの

由美
澄江
由美

：それって
不倫とか、そんなんじゃないわ
え？

この手紙、その様子って店員さんに渡したかったんじゃないかし
ら。書いたけど、どうしても渡せなかった。赤いアネモネもきつ
と渡すつもりで買ったの。でも渡せなかった

沈黙。

由美

知ってて黙ってたんですか？

澄江

そうね

由美

どうして

澄江

結婚しても全部自分のものになるわけじゃないのよ

由美

紫のアネモネの花言葉、知ってる？

澄江

いえ

由美

あなたを信じて待つ

澄江

：

由美

それでも夫婦でいたかったの

澄江

：お義母さん

由美

健吾との結婚迷ってる？

澄江

：いえ

由美

：そう

澄江

はい：

由美

由美さん。結婚したからってすぐに夫婦になれるわけじゃないわ

澄江

：

由美

二人で、夫婦になっていくものなのよ

澄江

：そう、ですね

由美

後悔しないようにね

澄江

：はい

由美

アネモネが風に揺れている。

終わり